

高等学校 1年 特別活動 (LHR) 学習指導案

「情報を発信する人の責任や守るべきルールを考え話し合う」

日時：平成 年 月 日 ()

場所：

授業者： 教諭 青木 伸枝

1 主題名

「文字によるコミュニケーションの特性の理解と相手の立場に立った表現の工夫」

2 主題について

(1) ねらいについて

携帯電話のメールは現在、コミュニケーションの中心的な手段の一つとして、多くの生徒が日常的に頻繁に使用している機能である。メール等の文字によるコミュニケーションは、相手の表情や話し方・トーン・スピードなどの情報がなく、文面からの情報だけでストレートに内容を受け取るため、対面してのコミュニケーション以上に相手に対する思いやりや配慮が必要となる。

普段何気なく使用し無意識にやり取りしているメールについて考えさせることで、受け取る相手の気持ちを思いやることの大切さを考えさせたい。また、相手を思いやった表現を用いることで自分の気持ちをより効果的に伝えられることを、グループで話し合う活動を通して考えさせ、インターネット社会で互いに気持ちよくコミュニケーションできる能力を身につけさせたい。

(2) 生徒の実態について

現在、本校生のほとんどが携帯電話を所持しており、携帯電話はコミュニケーションの中心的手段の一つとなっている。携帯電話の使用状況をアンケート調査した結果、よく使う携帯電話の機能のトップに「メール」と答える生徒が多かった。中には1日のメールのやり取りが50回を超える生徒も見られるため、文字によるコミュニケーション能力の向上とともに、依存症や睡眠不足など健康面の心配からも、携帯電話の正しい使い方について指導する必要性を感じている。

メールでやり取りしているのが自分と親しいごく限られた範囲の人たちであるために、生徒たちは件名を付けず突然本題に入ったり、自分の名前を名乗らずに一方向的に用件を送りつけたりしてしまっている現状が見られる。そこで、情報モラルLHRを通して、文字によるコミュニケーションの特性を十分に理解させ、「メール」というコミュニケーションツールを正しいマナーと考え方で使用し、よりよいコミュニケーションづくりができる生徒を育てていく必要がある。

(3) 資料について

【展 開】 NTTドコモ 「iのあるメール大賞」 <http://i-arumail.jp/>

相手を思いやる心やメッセージが効果的に受け手に伝わることで、相手を元気づけたり物事がよい方向に向かったりすることを実感し、生徒の表現力を伸ばす参考例とする。

【参考資料】 ①文部科学省 人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕

<http://www.mext.go.jp/>

②やってみよう 情報モラル教育 <http://kayoo.info/moral-guidebook-2007/>

③熊本県教育委員会 情報モラル教育 <http://kyouiku.higo.ed.jp/page2012/>

④情報モラル指導セミナー「5分で分かる情報モラル」

http://sweb.nctd.go.jp/5min_moral/index.html

(4) 指導にあたって

文字によるコミュニケーションの難しさから実際に自分たちが体験したことを思い出し、情報の発信者と受信者との間で受け止め方にずれが生じる場合があることを実感させる。その後、文字によるコミュニケーションは相手への思いやりが特に大切であることを確認し、本時の導入とする。

展開では「iのあるメール大賞」受賞作品の資料を使用して、どのように感じたかについて自分の言葉で表現させ、それをグループ内で話し合う活動を取り入れる。これにより、同じ文面でも人によって受け止め方に個人差があることを実感させ、相手の気持ちを思いやる心構えを持たせたい。また、いくつかのテーマに沿ったメールの文面を実際に考えさせる活動の中で、正しい情報や自分の気持ちを伝えるための表現の工夫を話し合い、コミュニケーション能力の向上を目指す。

「相手の気持ちを思いやる」ことや「自分の考えを表現する」ことは、文字によるコミュニケーションに限ったことではなく、実社会で生きていくために欠くことができないスキルである。担任がLHR計画の中で指導することで、情報モラルが教科「情報」の学習の枠を超えた社会の常識であることを強く意識させたい。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「1. 情報社会の倫理」、項目「a 5-1: 情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす」との関連を重視して、情報を発信する人の責任や守るべきルールを考え話し合う活動から、相手の立場に立つ想像力・コミュニケーション能力・人間関係を調整する能力の育成を目指す。

イ 自分の意見を発表し、他者の意見を聞く活動を通して、自他のよさを認め合い、自己表現できる力やコミュニケーション能力の育成を目指す。そのため、他者の意見を批判することなく自分の意見を発表するよう指導する。

(6) 人権教育の視点から

ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような雰囲気づくりに努める。

イ 他者の意見も尊重しながら、ともによりよい考えを導き出そうとする態度を育てる。

3 本時の学習 (1 / 1時間)

(1) 目標

文字によるコミュニケーションの特性を知り、相手の立場に立った表現を使用することで、インターネット社会でのよりよいコミュニケーションの在り方について理解し、それを実践する能力と態度を身につけさせる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と生徒の反応 (T:教師、S:生徒)	教師の指導と評価	備考
導入	10分	①これまでの経験を思い出す【一斉】 ★コミュニケーション = 「伝え合うこと」	T: 「メールでの誤解からトラブルになりそうになったことはないか」 S: ワークシートに記入	●できるだけ多く挙げるように指示する ●取組状況を確認する 【関心・意欲・態度】	ワークシート
	5分	③本時の学習内容と目標を理解する ⇒グループ分けの指示を聞く【一斉】	T: 「グループに分かれて思いを伝えるメールを考えてみよう」 S: 班を作り席移動する	●情報社会でのよりよいコミュニケーションについて考えることを伝える	
展開	10分	④4人グループに分かれて資料に目を通し、感想を記入する ⇒人によって受け止め方が違うことを確認する【グループ】	T: 「それぞれのメールを読んでどう感じたか」 S: 「涙が出そうになった」などの感想を付箋に記入して場に出し合い、グループで確認する	●読んだときのすぐの印象や感じたことを、そのままストレートに表現するよう指示する ●お互いの意見を批判させない 【技能・表現】	付箋 ワークシート
	10分 10分	⑤設定されたパターンのメールを書く ⑥グループ内でお互いのメールを読み感想を伝えあう ⇒それぞれのパターンから最も感動したメールを選ぶ 【グループ】	T: 「『家族へのメール』『親友へのメール』『懐かしい人へのメール』『感謝を伝えるメール』を書いてみて、お互いに読んでみよう」 S: 各自でワークシートに記入する⇒4人のメールの中からよいと思うものを選び出して感想を書く	●「正誤」を判断するものではないことを伝え、相手の意見を尊重させる【思考・判断】 【技能・表現】	タイマー ワークシート
		相手を思いやることの重要性を理解する。			
終末	5分	⑦本時の学習内容を整理する【一斉】 ⑧本時のまとめを聞く【一斉】	T: 「コミュニケーションで大切な事は何か」 S: まとめと感想を記入 「思いやり」が大切であることを理解する	●よりよいコミュニケーションづくりに情報モラルは欠かせないことを強調する 【知識・理解】	ワークシート ※回収
		評価 受け取った相手にどのように伝わるかを考えた文面を工夫できたか。			

